



かたはSP学生Office

教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と  
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

かたはSP通信

と  
ひ  
ツムぐ学生

第2号

2017年4月7日

編集 濱嶋和也  
(片葩小SP担当)

2017年4月7日(金)

## かたはWSP (ウィークリーSP)

今日、朝一番に庄子校長先生と今後のSPの活動についての話をさせていただきました。自分なりに気になることがあったので、校長先生に直接うかがってみようと思い、資料も作らずに、思い切って話をさせていただきました。

なぜお話をしたったかという、先日、打ち合わせで校長先生から「SPも進化しないとイケないと思う」というお言葉があったのですが、自分は、「SPはまた新たな境地(仕事)に進出するのか」と思ったり、逆に『いくらいい学生が揃っていても、仕事を増やして大丈夫かな』と心配したりしました。そこで、その方向性について伺いたかったのです。

校長先生は自分の話を親身になって聞いてくださり、アドバイスをしてくださいました。その中でのお話を少し紹介します。

濱嶋：SPの進化とは、SPがどのような方向性で進めばよいということなのですか？

校長：今までと同じ質の教育じゃだめだよ。一人一人が去年よりも高い目標をもって取り組むことが必要だよ。

みなさんは、この会話から、濱嶋の大きな「思い違い」に気づくことができたでしょうか。

私は、【進化=仕事を増やすこと】だと思っていました。しかし、校長先生の真意は、

**【進化=SP一人一人が子どもたちに指導・援助する教育の質を高めること】**だったのです。

SPの根底は、【ボランティアであり、一人一人が教員になる前に現場感覚を養い、少しでも力をつけて現場に出ること！】でした。一人一人がSPとして、誰のためでもなく、誰に認められるためでもなく、自分のためにボランティアを行う。SP活動の真意というものを、もう一度見直すことができました。校長先生には、本当に貴重な時間を作ってくださいました。ぜひ、現役SPも、もう一度自分がSPを始めようと思った時の気持ちを思い出してもらえると嬉しいです。

最後に校長先生から、学校のSP活動に対する思いを受け取りました。

**「学校の方向性として、『この活動が長続き、そして広げるためにまねしやすくすること』が一番重要なファクターである。」**

また、SPのみなさんや、和地先生、中村先生、大澤先生、そして新たに加わってくださった杉江教頭先生、校務主任の山口先生とも相談して、SPの活動をより良くしていきたいです。

